

せめんとノ貯藏法ニ就テ

(第三卷第一號所載)

工學博士 廣

井 勇

本誌第三卷第一號ニ於テ會員工學士茂庭忠次郎君ノ詳論セラレタル實驗ノ結果ハ嚮ニ記者カ解決ヲ試ミタル問題ヲ更ニ深ク攻究セラレタルモノニシテ斯學ノ爲メ眞ニ其勞ヲ多シトスルモノナリ

せめんとニ於ケル風化ノ作用中其凝結力ニ關シテハ著者ノ實驗大體ニ於テ記者ノソレト同様ノ結果ヲ呈シタルモノナリト雖モ凝結時間ニ至リテハ大ニ異ナル所アリ

せめんとノ凝結時間ナルモノハ轉變極リナキモノニシテ同一種ノせめんとニ就キ同時ニ試驗ヲ施スモ取扱上些少ノ相違ハ直ニ其結果ニ差異ヲ生スルヲ常トスルモノニシテ就中水量氣溫濕度容積等ハ凝結時間ヲ左右スルコト尠ナカラサルモノナレハ若シ異日同種ノせめんとニ就キ實驗スルコトアラハ更ニ異ナル結果ヲ得ヘシト信スルモノナリ故ニ記者ハせめんとノ品質ヲ定ムルニ當リテモ凝結時間ニ關スル試驗ニハ餘リ重キヲ置カサルナリ殊ニ異性ノ物質ヲ混スルトキハ凝結時間ハ忽チ一變スルモノニシテ例之ハ緩結せめんとニ火山灰ノ如キモノヲ混和スルトキハ直ニ之ニ急結性ヲ附與スルコトアリ而モ時日ヲ經過セハ復タ緩結性ニ歸セシムルアリ

分析表ニ見ル所ノ熱灼減量ノ風化ニ依ル増加ハ是レ實ニ風化直接ノ結果ニシテ(其他成分中増加

セルモノニ關シテハ風化ノ場所及狀體等詳カナラサレトモ聊カ奇異ノ感アルヲ免レス(主トシテ石灰ノ水化及炭酸ノ吸收ニアルモノナラン故ニ風化ニヨリ一旦凝結力ヲ失ヒタルせめんとヲ灼熱スルトキハ或程度迄ハ其舊性ヲ回復スルモノナリ)著者ノ實驗ニ據レハせめんとハソノ樽詰ナルト無裝ナルトニ拘ハラズ經過日數ニ伴ヒ其凝結力ヲ減スルモノニシテ只タ減退ノ速度ヲ異ニスルアルノミ而シテ樽詰せめんとハ製出後凡ソ三百日以内ニ於テ之ヲ使用スヘシトノ事ハ施工上頗ル重要ナル事柄ニシテ各樽ニ製造ノ年月ヲ記セシムルトキハ工事施設者ノ爲メ蓋シ利便鮮カラサルヘシ然レトモ著者ノ案出セラレタル等式ニ據ルトキハ樽詰せめんとハ製出後四五年ヲ經過セハ其凝結力ヲ全然失フモノトナスニ至リテハ聊カ疑義ナキ能ハス蓋シ記者ハ年月ヲ記憶セサレトモ曾テ數年間貯藏シタルせめんとヲ使用シテ施工上豫定ノ好果ヲ得タルコト一再ニ止マラサルヲ以テナリ(完)

工學博士　日　比　忠　彦

せめんとノ貯藏法ニ關スル著者ノ實驗ハ大體ニ於テ廣井博士ノ東京帝國大學工科大學紀要ニ報告セラレタル成績ノ正鵠ヲ立證シ其凝結時間ニ關シ多少相違セル結果ヲ得タリトシ其現象ハ溫度ノ影響ト游離石灰ノ作用ニ因ルナル可シト結論セラレタリ要スルニせめんとノ貯藏ニ關シ長期ニ涉ル風化ハ却ツテせめんとノ品質ヲ低下シ其凝結力ヲ減退セシム可ク樽詰ノ儘乾燥セル室内ニ保存スルノ優レルモノナルコトヲ實證セルモノニシテせめんとノ取扱上最モ注意ス可キ問題ノ一タルヲ失ハス余ハ自ラ其實驗ヲ施行シタルコトナク今更其權威アル結論ニ更ニ蛇足ヲ添